

一・二六事件と世相

皇道派の青年将校は、昭和十一年（一九三六）、永田町一帯を占拠して「国家改造」を要求した。

この日は未明から雪が降り出し、この事件と重なって東京市民の不安は高まった。

皇道派青年将校は首相官邸・内大臣私邸・東京朝日新聞社などを襲撃、内大臣・蔵相・教育総監らを殺害した。

農業恐慌に豊作貧乏・凶作飢饉が加わり、特に東北農村の惨状はこの写真のように目をおおうばかりであった。



また、下の写真の様に、山形県伊佐沢村では、恐慌下の窮乏農家は娘を売って、借金返済をしなければならなかった。と言われた。

三月、近衛文麿に組閣命令が出たが近衛辞退、広田内閣が誕生した。後、裁判の結果、多くの将校死刑にされる等の大事件であった。

